

# 会 議 記 録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 24年 11月 26日(月曜日)	開催時刻	13時 30分から 15時 00分
会議名	丸子地域協議会(平成 24年度第 9回)		
出席委員	齊藤重一郎会長、丸山かず子副会長、池田佐代子委員、内田弘子委員、北村好美委員、工藤裕子委員、久保田和英委員、齊藤實委員、笹井文雄委員、佐藤重喜委員、清水三枝委員、竹花和彦委員、竹花節子委員、中澤ゆかる委員、宮崎涼委員、宮下正明委員、村松正孝委員【欠席】松山慶子委員、宮坂雄一委員、山本進委員		
市側出席者	宮澤センター次長兼地域振興課長、児玉地域振興政策幹、芹澤市民生活課長、高野健康福祉課長、小相沢建設課長、丸山産業観光課長、滝沢上下水道課長、矢島丸子学校給食センター長、小林消防課長、大平地域政策担当係長、翠川地域政策担当主査、馬場		

## 会議次第

### 1 開会（宮澤センター次長）

- ・配布資料の確認、欠席委員の報告

### 2 あいさつ（齊藤会長）

本年も残すところ 1 ヶ月ほどになりました。朝晩非常に寒くもなりました。委員の皆さまには健康に十分注意していただきたいと思います。

本日は、全体会終了後に分科会の開催を予定しています。また、来年の会議日程についても、その他事項で決定したいと思いますのでよろしくお願ひします。

### 3 議題

#### (1) 平成 25年度地域振興事業基金活用事業について（宮澤センター次長）

- ・資料に基づき 25年度活用計画について説明

当日資料：平成 25年度 地域振興事業基金の活用事業について

#### 主な質疑の内容

（委員）丸子公民館の駐車場の場所がわかりづらいという話を丸子地域外の人から聞くので、駐車場が奥にあることがわかるような対策を考えてほしい。

（地域振興政策幹）丸子公民館の駐車場は低い場所にあり、雨が降るたびに冠水している。災害防止の観点での舗装ということで予算化した。御指摘のとおり、地域外から来る皆さんにはわかりづらい場所である。例えば、看板設置とかそういうことを検討したい。

（委員）4 番の木曾義仲拳兵武者行列事業について。事業主体の団体はどこか。

（センター次長）自治センターも入るが、商工会や観光協会のほか市民団体的な位置づけの中で取り組みをしている団体の皆さんが中心となり実行委員会組織を作り、イベントを行うという形になると思う。

（委員）3 番のリバーフロント市民協働事業について。本来の計画は、公園のような形で整備して活用していくということだが、それに対する全体的なスケジュールについて聞きたい。4 番の木曾義仲の行列事業について。例えば、5 番の事業などと比べると 4 番にかかる事業費の割合が大きい。上田地域あるいは丸子地域における位置づけは。今後どんな形で取り組んでいくのか。全体的な位置づけや計画、方向性について聞きたい。

(センター次長)リバーフロント事業については公園化というか、市民に親しみやすい場所にしていきたいという思いで実行委員会を作り、現在計画を進めている状況である。ただ、あの場所は民間の皆さんが使用している所や、自治センターとしても一部使用している場所もあり、それらが整理できなくなかなか全体的な整備までいかないというのが実態である。現段階で実行委員会としてできる部分を、全体を見渡して一部使えるところだけでも使っていこうではないかという考え方の中で、駐車場整備と道路舗装の整備をしたいということである。また、一部使えるようになってきたら、周遊道路のようなものを作りたいと考えている。ただ、民間の皆さんがいる関係で、どうしても時期はお示しができない状態である。移転先等も簡単に見つかるものではないため、見通しが立っていないのが実態である。木曾義仲拳兵武者行列については、今後どうやっていくのか、前回事業の反省点を考慮し、進め方を考えていくことにはなると思うが、丸子地域の一大イベントという位置づけをする中で、4年に1回くらいは是非やっていきたいという実行委員会の思いがあるため、継続していきたいと考えている。

(委員)3番のリバーフロント事業は、公園化して色々なイベント等をやることによってこの地域の活性化に寄与するという当初の考え方であったわけだが、今の話を聞くと、若干トーンダウンしている気がする。色々難しいというのは当初から言われていて、理解はしていることだが、全体的に先行きのいつ頃どうしていこうという方針もなく、この取り組みが進んでいるというのは、本来の計画からするともう少しやり方を考えていく必要があるのではないか。行政も含め、この地域としてそういうことをやっていこうという方向性が出ているわけで、もう少し踏み込んだ取り組みをしてもらう必要があると思う。4番の木曾義仲行列事業については、どういう効果を期待できるのか、先行きを見込んで費用を掛けていくことをしなければいけないと思う。やりながら考えていくというのも一つの方法ではあるかと思うが、ある程度のお金を掛けていくためには、それでどういうことを目標としてやっていくのか、もう少ししっかりとした方向づけをした上で費用を使っていくという方向を是非御検討いただきたい。

(センター次長)御指摘のとおりだと思う。場当たりの事業推進という形では許されない部分だと思っている。ただ、今の段階でできるところを進めていく必要もあるということから、実行委員会の中でもより十分話し合った上で進めていきたい。また、御指摘のことも実行委員会の中に投げかけながら進めていきたいと思う。木曾義仲の行列についても、どういう効果が見込めるのかということはやはり重要なポイントだと思う。実行委員会を組織してやる中で、色々な人の意見を入れながら、今後のあり方等を話し合っていきたいと思っている。

(委員)全体のスケジュール作成についての取り組みや議論には力を入れてやってほしい。

(センター次長)はい。わかりました。

(委員)木曾義仲の行列は、確か4年前の産業フェスタで大々的に行い、産業フェスタを大勢の方に来て見てもらおうということでやったと思う。4年に1度、600万円で開催するのではなく、もう少し4年間じっくり温めてやっていくイベントにしてほしい。

(委員)5番の日本の名湯百選シンポジウム開催事業について。第2回目を鹿教湯温泉に招致ということだが、木曾義仲と比べての事業費の差が気になる。第1回目がどこで、どの程度の規模で行われたのか教えてほしい。

(委員)第1回目は9月26、27日に石川県山中温泉で開催され、私も参加してきた。日本

全国北海道から沖縄含めて九州まで、百選とあるがまだ百選はなく、100番目まで順次募集中である。第2回目の開催を是非鹿教湯温泉でやってほしいと要望したところ承諾をいただき、来年の9月下旬頃、鹿教湯温泉での開催が決定した。鹿教湯温泉は100番の中の第1番という記念すべき番号をいただいております、それに負けぬように来年第2回の開催地として、講演会なども行いたいと思っている。また、観光地めぐりなども開催したいと考えており、御意見・御要望等を伺いながら、意見を事業へ反映させていきたい。

(産業観光課長) 若干補足説明させていただくと、百選ということで今まで89の温泉地であったわけだが、今年度無事百選になったという話を聞いている。また、第1回目の予算については、山中温泉観光協会に問い合わせたところ、約100万円弱の予算で行っているということだった。

(委員) 木曾義仲拳兵武者行列は一日の行列か。

(センター次長) そのとおりです。

(委員) わがまち魅力アップ事業はいくつもの団体の補助金で700万円。費用対効果を考えると、この木曾義仲事業の600万円の予算はどうか。改めて考える必要があるのではないかと。600万円というお金があるならもう少し色々な部分で、もう少し違うことがあり得るのではないかと。普通感覚からすると検討の余地があると思う。

(センター次長) 費用対効果について、様々な意見があることは承知している。ただ、この事業に関しては、やはり拳兵の地でもあるということで住民の皆さんの木曾義仲に対する色々な認識を高めたい。また、真田幸村をNHKの大河ドラマにという話があったが、その前に木曾義仲だという御意見もあり、それぐらい熱心な方もいる中で、地域活性化のイベントとして盛り上げていきたいという思いがある。金額が適切かどうかについては、実施する見込みを立てていく中で、確認しなければいけないと思うが、前回と同じくらいのレベルでということを考えてこの金額を上げさせていただいた。確かに、他のことをやってもいいのではないかと色々な御意見もあるかと思うが、実行委員会の中でもそういうことも相談しながらやっていきたい。

(委員) 丸子の公園から出たことも史実でははっきりしていない。ここからカネボウあたりまで武者行列をして皆に見てもらうだけではなく、本当に木曾義仲を愛しているなら、東部の千曲川の白鳥河原で馬揃えをしたことなども考慮し、もっと大きな枠組みの中で、もっと大きい地域の中で考えていくべきではないか。その方が大きなアピールにもなる。ただ武者行列を並べるのではなく、木曾義仲を一生懸命やっているところとジョイントする、リース代は高いが京都の鎧を借りるなど、もう少し考えるべき事業ではないかという気がする。

(委員) 最終決定ではないにしても、ここで提案するということは自治センターとしてはこれが妥当であるということによって位置づけられていると思う。全体の各事業に対するウェイトづけというのは、予算である程度出てきているわけである。自治センターとしても、この事業にこれだけ費用を掛けてやっていくというのが妥当だと判断されているわけであり、それが一体どういうことになるのかというのは、実行委員会というより自治センターとしてきちんと方向づけを持っているということだと思っておりますので、そこをきちっと聞かせていただくことも非常に重要なのではないかと思う。

(センター次長) もちろんそういうことである。基本的には、前回の中で非常に評価が高かったということもあり、そういう評価を見ながら同じような形での方向づけをしていき

たいと考えている。木曾義仲について、果たしてこの金額でやるのが適切かどうかについては色々な意見があるかと思う。ただ、実行委員会組織で進める中で、そうした意見があるということは伝えていくが、自治センターとしては、なんとか武者行列を成功させて、地域活性化に向けて取り組んでいきたいという考え方でいる。

(委員) 評価が高いということだが、例えばイベント時に義仲まんじゅうがたくさん売れたとか、評価の基準はどこにあるのか。大きなお金を使うならそれなりの物があってもいいのではないか。例えば、商業者との色々なコラボがあったなど。木曾義仲を愛している人たちが自己満足だけで終わっているのではないか心配な面がある。

(委員) 前回の決算書を見せていただけないか。使途の内訳がわかれば、同じ義仲の行列にしても、他にやるべきことが出てくると思う。ただ 600 万円を洋服の借り賃で終わってしまった行列だったのならもったいない。内容を確認すれば納得できる部分もあると思う。

(センター次長) 前回の実績は調査してある。概要の資料については次回出したい。

(会長) 厳しい意見がかなり出ているが、来年度の振興基金であり、有効に使うという形の観点から十分検討していただきたい。

#### 4 報告事項

##### (1) 平成 24年度丸子地域自治センターの重点目標の中間報告について(センター次長)

- ・平成 24年度丸子地域重点目標の進捗状況について説明。
- ・上田市のホームページにも掲載。

資料 1: 重点目標一覧表(中間報告調書)

##### 主な質疑の内容

(委員)【重点目標 1- 】私どもの自治会でも、「じいちゃん・ばあちゃんあいさつし隊」というボランティア組織がある。黄緑色のベストを着ており、青色回転灯車の運転手の方も多分わかっていると思うのだが、素通りをしていってしまう。軽く手などをあげていただけたらありがたいという要望があったので、是非お願いしたい。

(市民生活課長) 子どもたちの安全・安心のために地域で活動していただいているということで大変ありがたく思っている。一緒にやらなければいけない事業であり、今後あいさつしたり、できればお話も伺ったりしたいと思っている。

(委員)【重点目標 1- 】進捗状況に「豪雨による倒木で進捗状況に 2 件の車両事故発生」とあるが、車両事故の状況について簡単に説明してほしい。また、市の豪雨後の倒木対応についてお聞きしたい。

(建設課長) 集中豪雨があった日に丸子小牧線で倒木があり、2 つの車両が衝突した物損事故であった。倒木の恐れがある危険木の対応については、例年 250 万円の予算で危険木の伐採等を行っているのだが、今年度はそこへプラス 300 万円の予算で、箱畳線や小牧線を中心に、枯れた松等を伐採した。継続して実施したい。枯れた松については、伐採してもつぎつぎと枯れてくる状況である。なるべく早く発見して危険な木から処理している。山林所有者へは自治会長会での呼び掛け、また広報などでも所有地を点検して伐採のお願いをしているが、間に合わず、危険なところは自治体が伐採している状況である。

(委員) 早朝や緊急で個人で処理できない場合、自治センターの建設課に連絡が入ると思うが、対応はしてもらえるのか。

(建設課長) 自治センターの守衛さんから建設課の緊急当番へすぐに通報が入り、そこか

ら業者へ連絡がいくようになっていく。なるべく早く連絡いただくとありがたい。

(委員)【重点目標 1】下長瀬地域では一級河川の依田川堤防が学童通学路になっているところがあり、合併前に教育委員会で防犯灯をつくっていただいた経過がある。これから学童通学路に防犯灯を設置するとなると、とてもじゃないがお金が掛かり過ぎる。県の説明では横断図面をつける、平面図をつける、そうすると1基につき30万円以上のお金が掛かってしまうわけである。各地区でつくっている防犯灯はポール式でも6万円くらい。学童通学路に30万円以上掛かる防犯灯を設置するのは実質的に無理である。来年度からの県などの予算や重点目標を見ると学童通学路を優先的に安全にしていく、設けるとあるがそのようなところにも留意して対応していただきたい。

(市民生活課長)以前、依田川リバーフロント会議に建設事務所の方が出席し、色々なことについて、今ある規制をなるべく緩和してやっていきたいという話を聞いたこともあり、そこでなんとか対応してくれないかなという思いがある。ポールを立てるために堤防に穴を開けるとなると、どのくらいの深さを掘るのか、堤防の断面上どこまでいくから危ないというようなことを知りたいということもあり、もしかすると簡単にはできない範囲なのかなとも感じている。私どもの方からも現状を話しながら、お金が掛からないような簡易的なことができないのか相談していきたい。

(委員)実際に県の方に立ち会っていただいたが、あまりに提出書類が多く、無理だということになった。ボランティアで対応できる金額ではなかったので、学童通学路については、ある程度自治センターで対応していただくとありがたい。

(委員)重点目標一覧表は、今日のこの会議で説明していただくために作成された資料のようであり、スペース的に余裕がなく、十分な書き込みができなかったということがあるかと思うが、期限・数値目標のところは、重点目標によっては数字が達成目標であったり手段であったり入り組んでいる。達成目標の場合は、そのまま目標値として読み取ることができるのだが、手段の場合は、やはり一緒に目標値や具体的な進捗状況が書かれていないと、手段の数値だけ示されてもどうなったのか判断がつかない。是非、その辺を整備して、手段の場合には、もう少しきちんと目標に対してどうなっているのか書き込んでいただきたい。今後はその点を考慮してほしい。

(センター次長)承知しました。何回やりますという目標を立てたので何回やりましたという結果が出てしまうのだが、だからどうなのだとところがある程度必要だと思う。そこも踏まえて結果は見ていきたい。

(副会長)【重点目標 1- 】可燃ごみ5%削減目標が1.6%増加している。なぜ増加したのか。住民へのごみ削減の啓発はどのように行っているのか。【重点目標 4- 】地域の絆再生会議について。宅配事業はちょっと赤字のようだが、こういう事業は補助金をいただいている間はなんとか賄っていかれるが、補助金がなくなった時に事業として成り立っていくかどうかは重要なことだと思う。補助金がなくなっても継続していかれるような事業支援を今後お願いしたい。

(市民生活課長)啓発活動としては、6月発行の地域自治センターだよりにごみ減量化の記事を掲載している。9月末で増えたということで、もう一度地域自治センターだよりに掲載予定である。それだけでは減らなかつたということで、次回の自治会長連絡会の際にお願いし、回覧板をA4版両面刷りで、皆さんに徹底してもらおうと思っている。また、有線や丸子テレビ等でも広報していきたいと考えている。

(産業観光課長)御指摘のとおり、補助金のあるうちは賄えるという状況である。現在も、月に2回ほどの会議を開催し、一緒に協議していく中で、来年補助金が切れても、お客様方に迷惑を掛けずに続けていかれるような方策を研究しているところである。また、昨年のイベントの関係についても、広告、PR等をする中で周知していった結果、若干のお電話等もいただいております、今後より一層PRを重ねながら努力していきたいと考えている。

(2) 分科会及び研究会での検討状況について(各分科会等の会長から報告)

(ア) 市民団体の交流と相互連携に関する分科会

- ・内村地区(辰ノ口交差点～里山セラピー公園)をバス視察。
- ・沿線から見ただけでも、一生懸命地域おこしをしようとしている様子がわかった。
- ・内村地区も他地域と同様、どう継続していくかが大きな課題だと感じた。
- ・山の形状を上手に利用したマレットゴルフ場、茹で栗サービスのセラピー公園など、とても工夫がされており感心した。
- ・視察の感想の詳細については、A4資料の分科会会議概要を熟読いただきたい。
- ・本日の分科会では、具体的にどんな交流会を持つかを検討し、次回提案したい。
- ・交流会を開催する場合に、どういう対象に声を掛けるか、交流会の目的はどのようなことか、皆さんからアイデアを提供いただき、分科会で反映させたい。

(イ) 公共交通に関する分科会

- ・建設課から改正後のまりんこ号利用状況等について説明。現時点では、大幅な利用者数の増減はない。詳細は、公共交通に関する分科会(第3回会議)会議概要参照。

(意見の内容)

- ・乗車体験に基づいた意見が多く出された。会議概要参照。
- ・おたっしや教室や幼稚園・保育園など色々な場所でPR活動した方がよい。運行形態が変わったことを周知させる必要がある。

(その後の動き)

各自治会のおたっしや教室で、健康福祉課の職員から説明いただいている。地区限定の資料も作成いただき、非常にわかりやすく好評だと聞いている。

先日、丸子地域にある9幼稚園・保育園のうち6園の園長先生に集まっていたとき、千曲バスさんと建設課を交え、色々な話を伺った。東西内村の園長先生からは、キッズバスが非常に好評だったということで、是非まりんこ号もなんとかあちらの方にも回してほしい、検討してほしいなど様々な意見が出た。

- ・今後、分科会としては、もっと色々な形で変更すべき点を研究、討議していきたい。

(ウ) 丸子ドドンコ見直しに関する研究会

第2回会議(10月25日)

- ・10月1日に行われた丸子ドドンコ反省会の内容を基に討議を行った。
- ・伝統ある35回も続くドドンコを無駄にたくない、来年度も続けたいということで、反省会において続けることが決定しており、それを前提に意見交換を行った。

(意見の内容)

- ・地域の学校でも非協力的な学校がある。

- ・以前やった大玉送りが非常に好評であり連帯感ができた、連も整えられる。
- ・お相撲さんにも参加してもらいたい。
- ・屋台を一箇所へ集中して出てもらってはどうか。

(今後について)

- ・継続の方向で改善策を検討し、あと数回の研究会で結論を出したい。

(I) 地域内分権と地域経営会議に関する研究会

- ・現在、各委員先進地の資料等の読み込み段階で、12月6日に研究会を開催予定。
- ・次回会議は、先進地の取り組みと我々はどこを参考にしていくかについて検討する。

(オ) 地域の産婦人科医療を考える研究会

- ・11月13日に上田市立産婦人科病院へ視察研修。設立当時から理念に沿って運営されてきたわけだが、理念に沿った素晴らしい施設、設備、環境だった。
- ・2施設の視察を終え、今後は考察を行っていききたい。

(カ) 商店街の活力アップ研究会

- ・現在資料づくりの段階であり、第1回会議は12月中を予定している。
- ・基本は、市の基本方針にもあるが、ファーストビルを核にしてどうするかということ。
- ・地域の絆再生会議を行っている商店街の若者の力を十分に発揮するにはどうしたらいいかということで、商工会事務局も一生懸命やっている。
- ・お買い物代行は全国的な悩みで、イベント事業である程度収益を上げて、その収益を補填しながらお買い物代行で地域の皆さんに貢献したいというのが彼らの基本的なものの考え方。そのためには、イベント事業をどういう形でという提案をしており、来年結婚式を一つ請け負おうという話も出ている。彼らにどんな施設や補助ができるか、どんな形で商工会としてバックアップできるか、それが商店街の活力になり得るか、どれだけの効果が出るのかも期待しながら資料づくりを行っている。

(キ) 新しい観光に関する研究会

- ・研究会はまだ1回の開催のみ。
- ・「観光」という枠組みは範囲が広く、テーマを一点に絞った方がいいのではないか。
- ・「新しい」観光ということだが、お金を掛けて新しいものを作るのではなく、お金をなるべく掛けずに、今ある自然や土産物、温泉などを上手く利用して、集客などに結びつけていけたらいいということで討議している。
- ・12月中の早い時期に第2回会議を開催したい。

5 その他

(1) 次回以降の会議の日程等について

- ・ 1月、2月の開催日をお決めいただきたい。事務局案としては、1月は 29、30日のどちらかで、2月は 26、27、28日の3日間のうちのどれかをお願いしたい。
- ・ 3月は、審査と実績報告会があるわがまち魅力アップ応援事業の関係で、2回の開催を予定している。3月分の開催日については、次回もしくは年明けに決定したい。

資料：平成 25年 丸子地域協議会開催予定資料

決定事項

- ・ 第 10回丸子地域協議会 平成 24年 12月 21日（金曜日）午後 1時 30分から  
丸子地域自治センター4階 講堂
- ・ 第 11回丸子地域協議会 平成 25年 1月 30日（水曜日）午後 1時 30分から
- ・ 第 12回丸子地域協議会 平成 25年 2月 26日（火曜日）午後 1時 30分から

6 閉会 15:00 地域協議会終了後、分科会開催（第 2、4会議室）